

## 雨量計

江越 航(天文担当学芸員)

天気予報では、よく「アメダスの観測によりますと、大阪の雨量は〇〇mm」などと言われます。これを測定しているのが写真の雨量計で、現在4Fで展示しています。この資料は2013年11月まで、豊岡特別地域気象観測所に設置されていた雨量計です。寒冷地で使用されていたことから、雪を溶かして計るような工夫もされています。

降水量の定義は、水平な面にたまった水の深さのことをいいます。測定原理は簡単で、茶筒のように口元と底が同じ形の適当な容器を屋外に出しておいて、たまった雨水の深さを物差しで測ればよいことになります。

ただ、それだと自動的に測定できないので、「転倒ます型雨量計」と呼ばれるものが広く使用されています。これは、雨量計内部に「ます」がシーソーのような構造で組み合わされ、水が溜まるたびに、ししおどしのように「ます」が左右に傾きます。この時に電気信号を出力することで、傾いた回数から、自動で降水量を測定するようにしています。



雨量計



転倒ますの原理 内部の「ます」が左右に傾く

ますが、これはもう傘を差していてもぬれるほどの大雨です。ニュースでたまに1時間に100mmをこえる雨が降ったと聞くことがありますが、もはや想像できないほどの雨量です。

気象庁では、毎日、様々な気象観測を行っており、降水量に関しては、気象官署や、無人観測施設など、全国1,300ヶ所で測定されています。

天気予報でよく聞く「アメダス」による日本各地の降水量は、こんな装置で測定されています。こうした気象測器に支えられて、日々の天気予報が作られているのです。

この前の7月に大阪に台風が近づいた際、最大で1時間に18mmの雨を観測しました。18mmとは2cm弱ですから、たいしたことないように感じ